

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年9月20日

【評価実施概要】

事業所番号	3270600269		
法人名	社会福祉法人 花の村		
事業所名	グループホーム 合歓の郷		
所在地	島根県江津市後地町834-1 (電話) 0855-55-1203・0855-55-1200		
評価機関名	NPOしまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白潟本町43番地		
訪問調査日	平成21年9月14日	評価確定日	平成21年10月8日

【情報提供票より】(21年8月17日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 4 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	13 人	常勤5人, 非常勤8人,	常勤換算5.0人

(2) 建物概要

建物構造	木造瓦葺 造り		
	1階建ての	1階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	48,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	200 円	昼食 350 円
	夕食	350 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4) 利用者の概要(8月17日現在)

利用者人数	17名	男性 1名	女性 16名
要介護1	2名	要介護2	7名
要介護3	5名	要介護4	3名
要介護5	0名	要支援2	0名
年齢	平均 87.5歳	最低 81歳	最高 93歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	森医院・花田医院・永井歯科医院
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

法人の「地域の創造・地域の活性化」の理念のもとに運営され、利用者は自分のペースでゆったり過ごしている。職員はチームワークを築き、「気付きメモ」にその日気付いた事を書き、それに対して一つ一つ理事長がコメントし、日々のサービスの振り返りを行っている。12のプロジェクトチームを作り、全職員が参加して様々な企画を立て発表会を行い、日々研鑽に努めている。施設内には独自で掘った温泉があり、利用者には喜ばれている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	課題であった「市町村との連携」「重度化や終末期に向けた方針の共有」は、努力され改善されている。「同業者との交流」「災害時の地域との協力体制」は継続課題となっている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4)
	評価は職員全員で分担して行った。評価の意義を理解し、できることから一つずつ改善に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	今年度の開催回数は少ないが、ホームの近況が報告され、意見交換を行っている。災害時の連絡体制について一緒に検討している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族会、運営推進会議、意見箱の設置、苦情相談窓口の案内など意見・苦情を聞き出す場を設けているが、意見はあまり出ない。面会時に話を聞いたり、職員の「気付きメモ」などから引き出す様にしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	敬老会などの地区の行事に参加したり、窓拭きや草取りのボランティアで婦人会や高校生の訪問があり交流している。認知症への理解を地域に広めようと、法人で講演会を行ったり、広報紙を公民館に配っている。

2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念のもと、地域との共存を基本とした理念を持っている。地域の方に「認知症についての理解を深めてもらいたい」と、広報の場を広げつつある。	○	法人の理念を基とした事業所独自の理念を作っていただきたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を掲示したり、会議やミーティングで唱和し確認しあっている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会からの行事の誘いに積極的に参加し、文化祭には利用者の作品を出展した。婦人会や高校生の「草取り」「窓拭き」などのボランティアの来訪があり交流している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員で取り組み、管理者がまとめた。外部評価の意義を理解し、改善に取り組んでいる。	○	自己評価を年間計画に位置づけ、計画的に取り組まれることを望む。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	開催回数が少ないが、現在の取り組みについて報告し質問を受けたり意見交換をしている。駐在所の方も参加し、災害時の連絡体制の検討を一緒にしている。	○	2ヶ月に1回の開催を目指し、議題を工夫しながら、さらに意義ある会議になることを期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市から情報をもったり、電話で相談をするなど連携を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時や、毎月、金銭管理の報告などとあわせ担当職員が写真を添えて近況を知らせていて喜ばれている。必要時は電話で連絡をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会がある。「苦情受付」を明記し、説明も行っている。面会時に聞いた内容は申し送りケアに活かしている。	○	意見の引き出しの工夫を検討していただきたい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内で職員のレベルアップを図るための異動を行っているが、異動した職員がホームを訪ねたり、法人内の施設で会話するなどし、利用者のダメージは少ない。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修を行ったり、外部研修にも積極的に参加している。認知症研修には殆どの職員が参加している。法人内にプロジェクトを作り、職員が参加して研鑽に努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	以前は広域センターでの管理者間の交流があったが、現在は交流の機会が殆ど無い。	○	ホームからも積極的に働きかけ、交流の場を持っていただきたい。
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前に見学してもらったり、利用後家族の面会を多くしていただく様になっている。デイサービスからの利用者も多く、混乱は少ない。		
からの					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の出来る事を一緒に行っている。地区の敬老会で米寿の祝いを受けた方が、地元の方との交流で普段とは違う表情で喜ばれ、職員も一緒になって喜びあった。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望や思いを言われたい利用者が多く、職員のペースになってしまう事もあるが、声かけを工夫して気持ちを汲み取る様に心掛けている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族の面会時に情報を聞き出したり、日々のケアの中で思いを汲み取り、担当スタッフと共に計画を作成している。センター方式を取り入れつつある。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	担当者会議で話し合い、現状に応じた見直しを行っているが、書面での新たな計画作成には至っていない。	○	職員が日々綴る「気付きメモ」を活かし、定期的に見直しをし書面に残していただきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	定期的な通院は職員が付き添っている。入院の送迎も行っている。冠婚葬祭、墓参り、見舞いなど特別な外出も支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は利用決定時に、本人・家族の同意を得てホームの協力医療機関の医師になっている。受診付き添いは職員が行い、往診や夜間対応もしてもらっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事業所で「出来る事、出来ない事」を見極め、利用者によっては家族、かかりつけ医と話し合い出来るだけ希望に沿う様に考慮している。全ての利用者・家族と方針を共有したいと考えている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	内部研修、外部研修に出来るだけ参加し接遇について学んだり、職員会議で振り返りを行っている。外部に個人情報を漏らさないよう周知徹底している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るだけ利用者のペースに合わせた支援を行う様心がけている。「強制せずに」「声掛けをしてから」を基本にしている。居間にある仏壇で毎日拝む利用者もいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の力に合わせ、出来る方には皮むきをしてもらったり買出しに一緒に行ったりしている。昼食は職員が同席し、さりげなく見守り、介助しながら同じ食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	仲のいい利用者同士での入浴や、「ゆっくり入りたい」という希望に合わせている。法人が掘った温泉を利用している方もある。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	行事の計画を立てるプロジェクトがあり利用者は楽しみにしている。出来る人には洗濯物たたみやテーブル拭きなどを行ってもらっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出の好きな方が多く、ボランティアの協力でデイサービスを訪問したり、地域の方の協力で自宅に行ったりしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	基本的に6時半から20時までは鍵をかけていないが、職員が手薄になる時には施錠する事もある。職員は施錠の弊害は理解している。	○	鍵をかけないためにはどうしたらいいかを検討していただきたい。地域のネットワーク作りも期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、緊急連絡網を目の付く所に貼っている。年1回消防署立会いのもと、訓練を行っている。	○	いろいろな災害を想定して対策を立て、地域の人と話し合いを行っていただきたい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の食事量や水分摂取量をチェックしている。定期的にデイサービスの栄養士の指導を受け、体重が低下した利用者のメニュー内容を検討した事例がある。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間からは中庭が見えガラス戸の多い明るい空間である。仏壇が置かれ、利用者の書を掛けたり、小物の作品を置き、落ち着いた空間づくりをしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の希望の物を持ち込み、一人ひとりに合わせた居室づくりをしている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。